

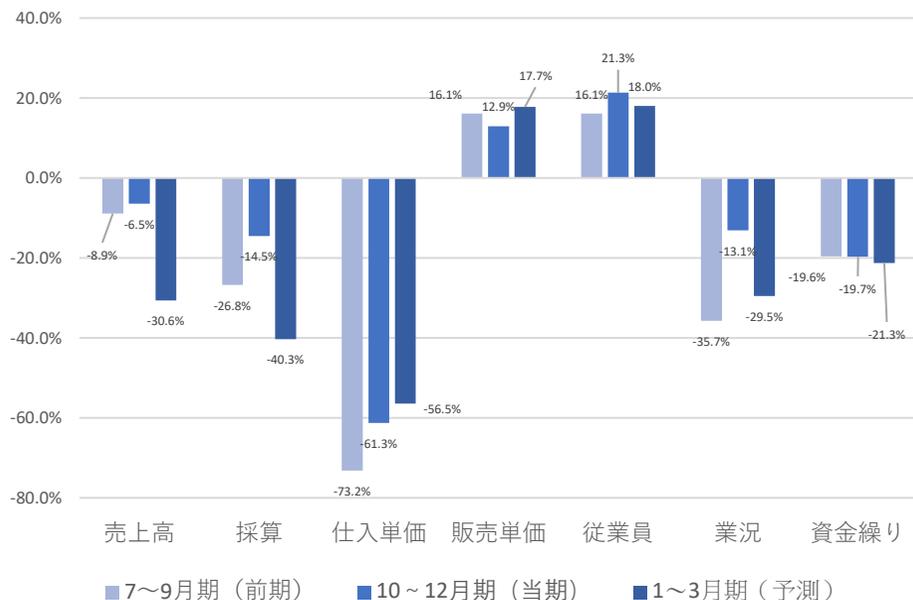
景気動向調査

令和5年度10～12月期

塩釜商工会議所

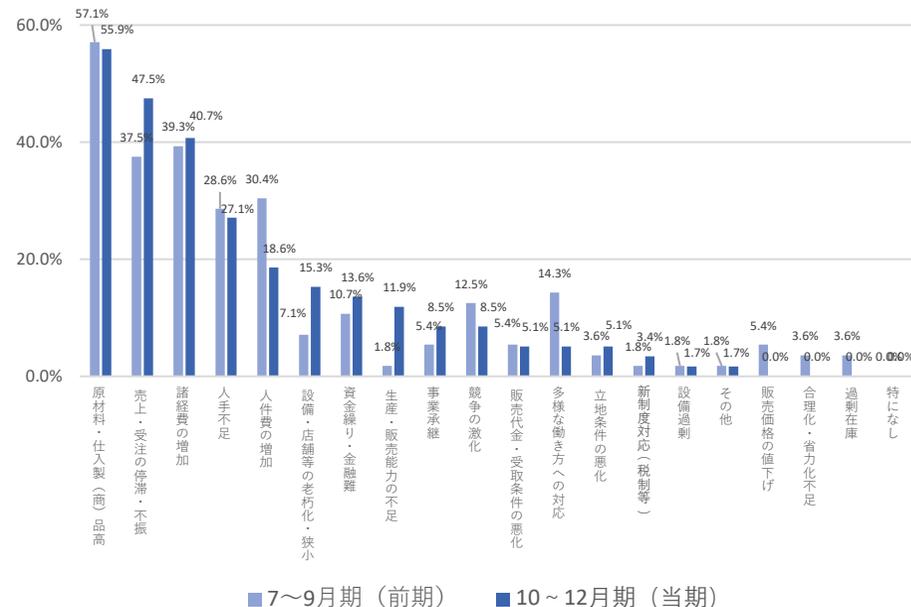
1. 調査総評

▼全業種平均D.I値



- ・「売上高」や「採算」、「業況」の項目は、前期と比較して上向いたものの、次期は落ち込む予測となった
- ・「仕入単価」は数値の推移だけをみると上向き傾向にあるものの、当期D.I値が-61.3ポイントを記録していることから、依然として仕入単価は高騰していることが予測できる
- ・「従業員」および「資金繰り」のD.I値に大きな変動はなく、次期も当期の状況が続く見込みの予測値となった

▼経営上の課題

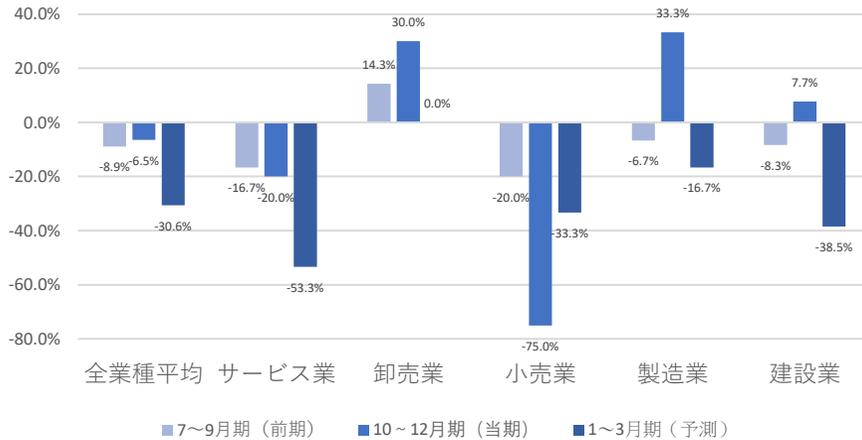


- ・「原材料・仕入製(商)品高」が55.9%を記録し、前期に続いて最も多くの回答が集まった
- ・「売上・受注の停滞・不振」が47.5%を記録。前期の37.5%から上昇した。また、「諸経費の増加」も40.7%を記録。依然として高い回答割合にある
- ・「設備・店舗等の老朽化・狭小」が前期の7.1%から8.2%増の15.3%を記録。「生産・販売能力の不足」も1.8%から10.1%増の11.9%を記録。内向きの課題への回答も増加してきた

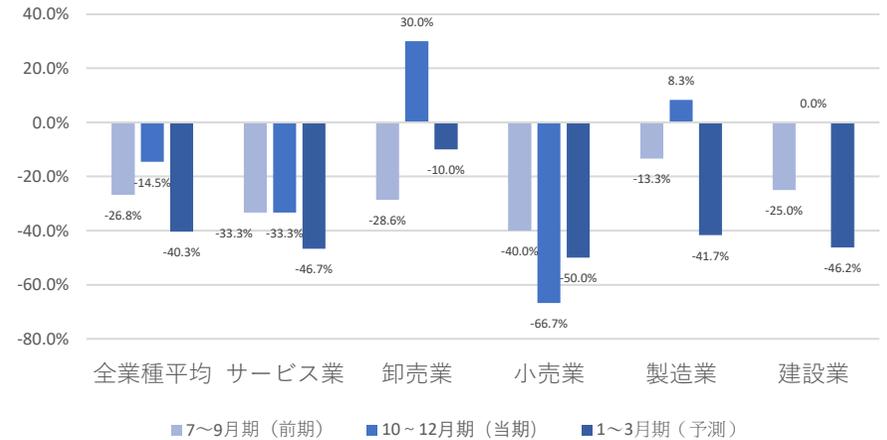
<h3>売上高</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・当期の卸売業、製造業が30.0ポイントを超えた一方、小売業は-75.0ポイントと、突出して低迷している ・次期について、サービス業では33.3ポイント、建設業では46.2ポイント下落する予測となった
<h3>採算</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・「採算」においても卸売業は好調だが、製造業では「売上高」より数値を落としている ・次期について、卸売業が-10.0ポイントを記録するなど、全業種でマイナス値の予測となった
<h3>仕入単価</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての業種で-50.0ポイントを超える数値を記録。仕入単価は依然として高騰していると予測できる ・次期について、小売業が回復予測の一方、卸売業は悪化予測となった
<h3>販売単価</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての業種で正の値を記録 ・次期について、小売業では下落もその他いずれの業種も上昇予測となった
<h3>従業員</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・小売業は0.0%を記録も、その他業種では従業員が不足していることがわかる <p>※0を除く正の値は従業員数「不足」、負の値は従業員数「過剰」を表す</p>
<h3>業況</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・小売業では-41.7%を記録。建設業も-30.8%を記録し、大きく落ち込んだ ・一方で、卸売業は20.0%を記録。前回の-28.6%から大きくプラスに転じた
<h3>資金繰り</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス業が-35.7ポイントを記録。さらに、次期予測も-50.0ポイントとさらに悪化予測となった

2. 設問別 D.I 調査

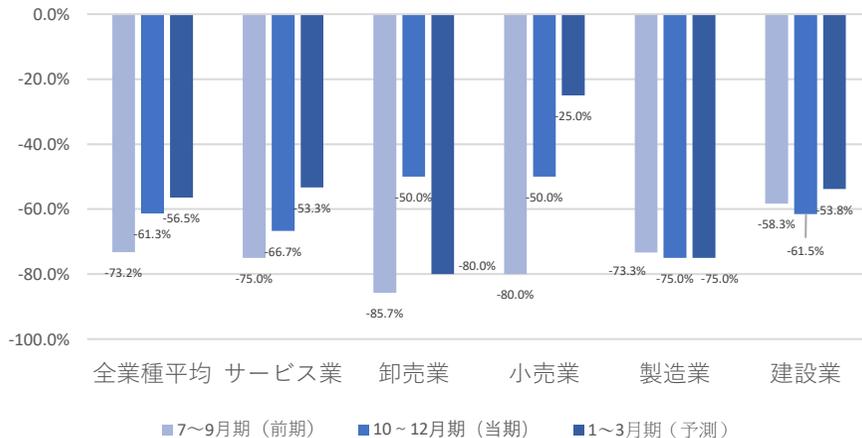
売上高



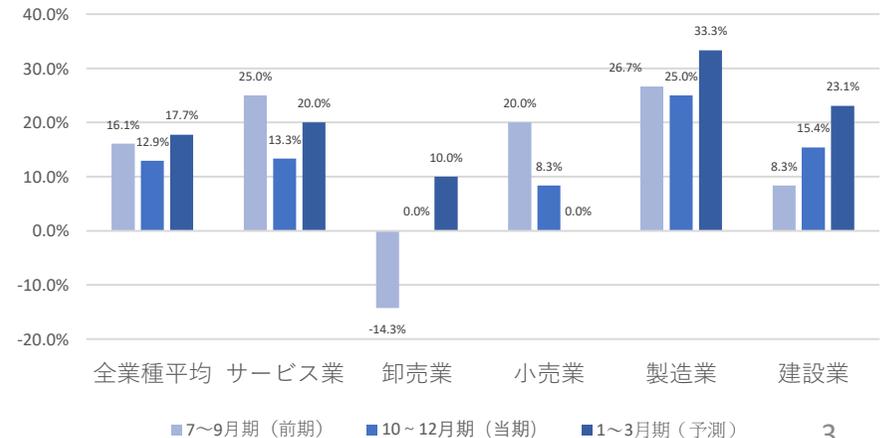
採算



仕入単価

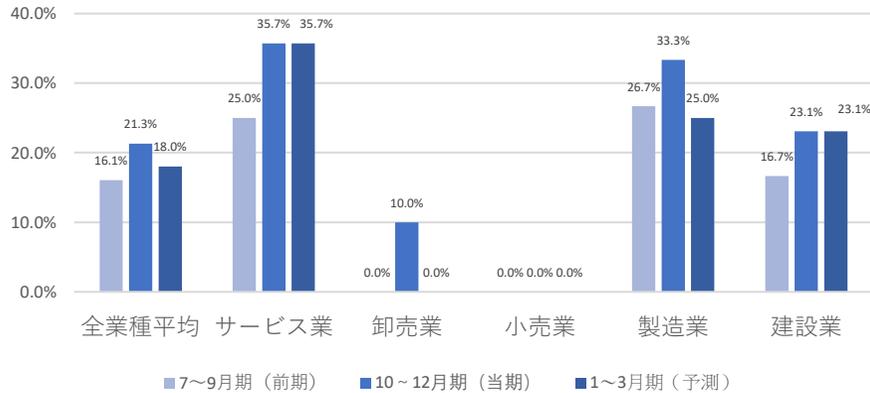


販売単価

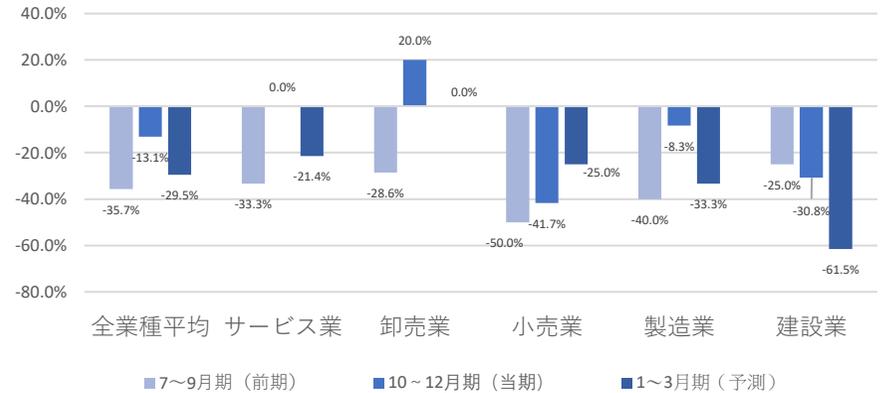


2. 設問別 D.I 調査

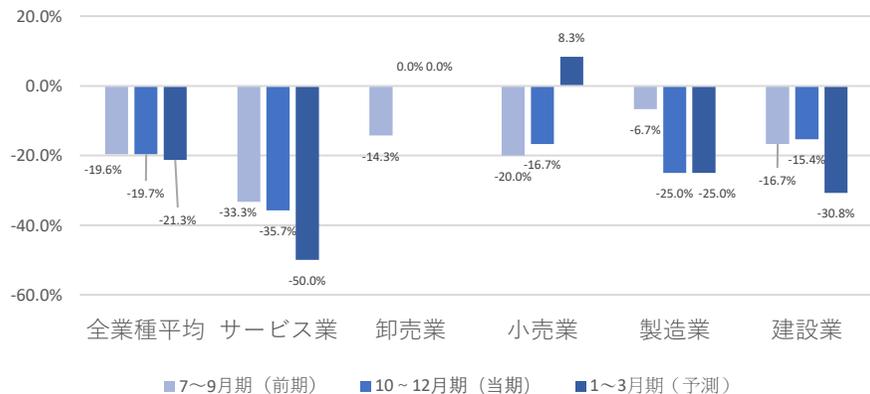
従業員



業況



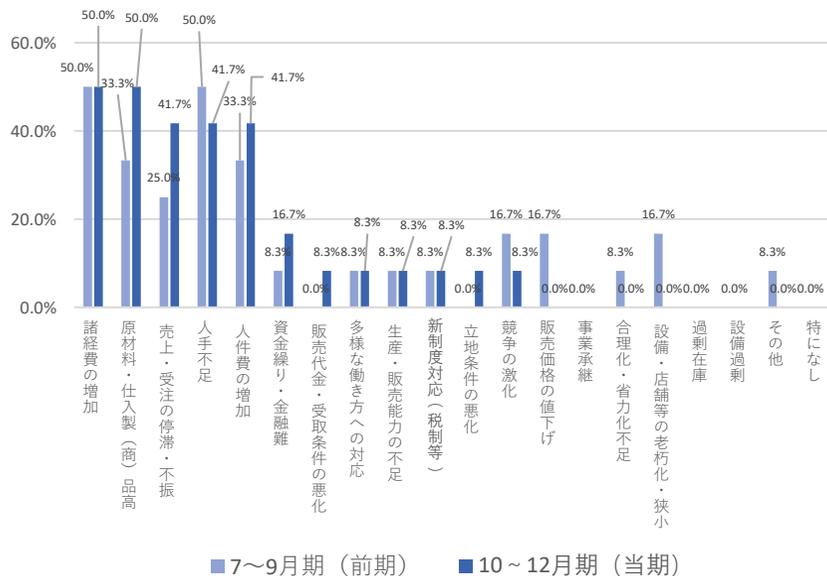
資金繰り



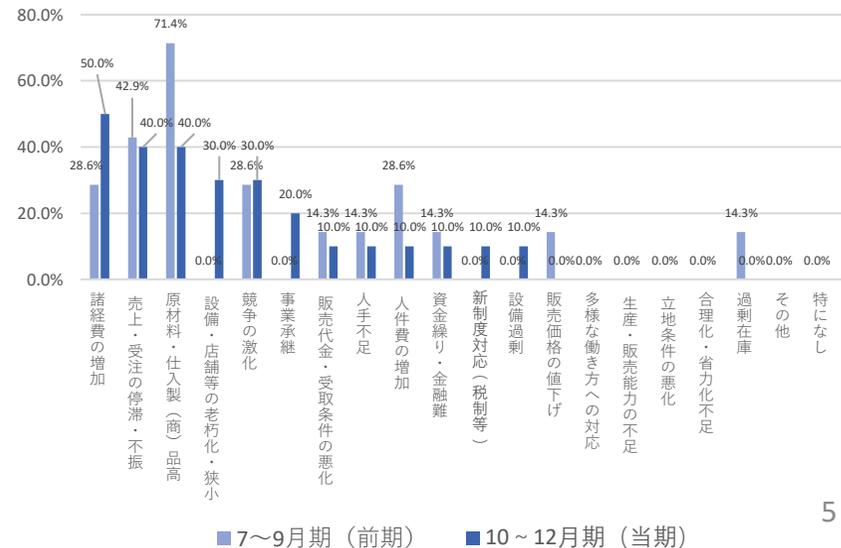
3. 経営上の課題

サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 「諸経費の増加」、「原材料、仕入製（商）品高」に50.0%の回答が集まった 「原材料、仕入製（商）品高」、「売上・受注の停滞・不振」は前回調査時よりも回答が集まった
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> 「諸経費の増加」が前回調査時の28.6%から大きく増え、50.0%を記録した 「原材料、仕入製（商）品高」は前回調査時の71.4%から31.4%減の40.0%を記録した
小売業	<ul style="list-style-type: none"> 「原材料・仕入製（商）品高」が75.0%を記録。前回調査時より15.0%減となったが、依然高い回答割合を示している 前回調査時0.0%だった「生産・販売能力の不足」、「設備・店舗の老朽化・狭小」が25.0%を記録した
製造業	<ul style="list-style-type: none"> 「原材料・仕入製（商）品高」は横ばい。依然として70%ほどの事業者が本項目を回答した 「人件費の増加」はやや落ち着きを見せたが、「諸経費の増加」への回答が伸びている
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 「売上・受注の停滞・不振」、「人手不足」が前回調査時より回答を集め、それぞれ53.8%を記録した 「原材料・仕入製（商）品高」が46.2%を記録。前回調査時の33.3%から数値が上昇した

サービス業

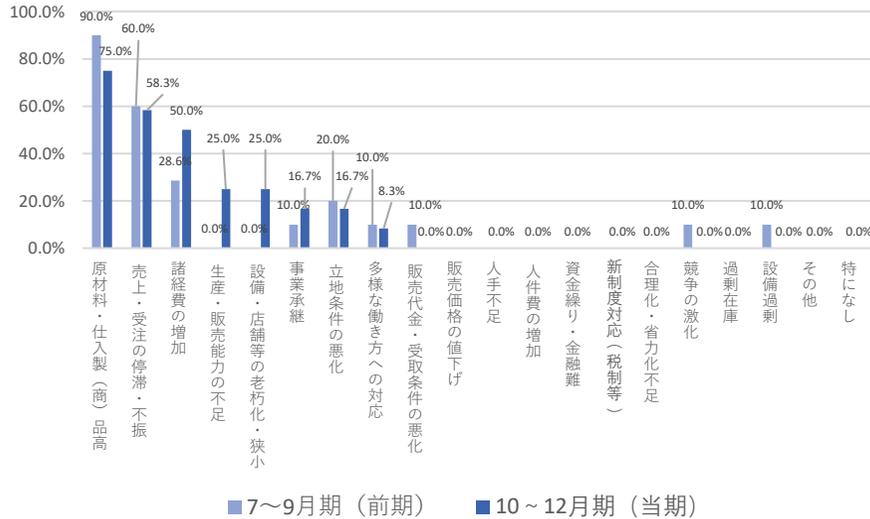


卸売業

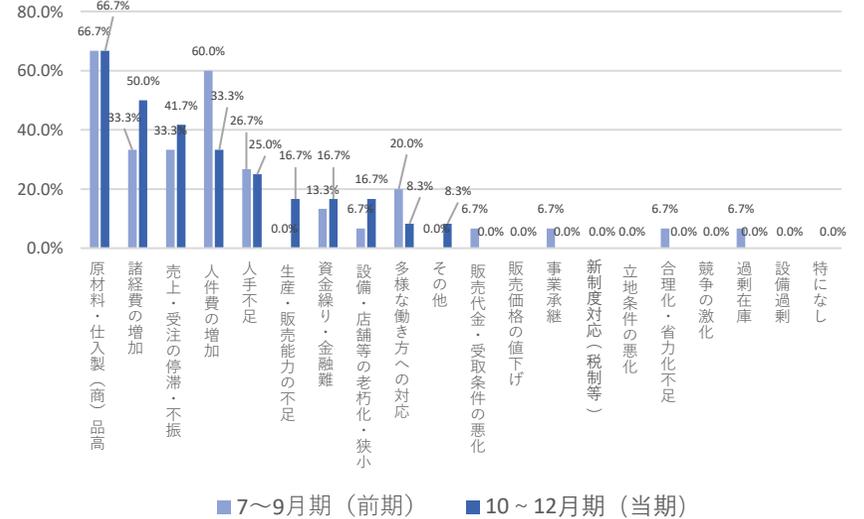


3. 経営上の課題

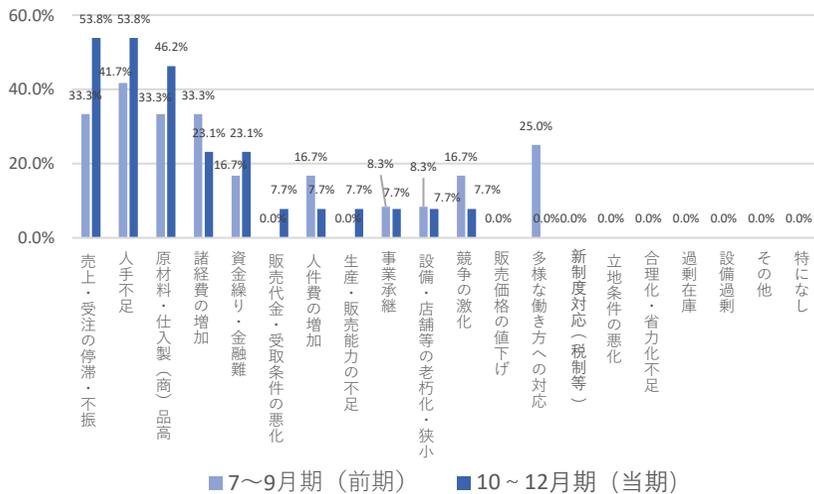
小売業



製造業



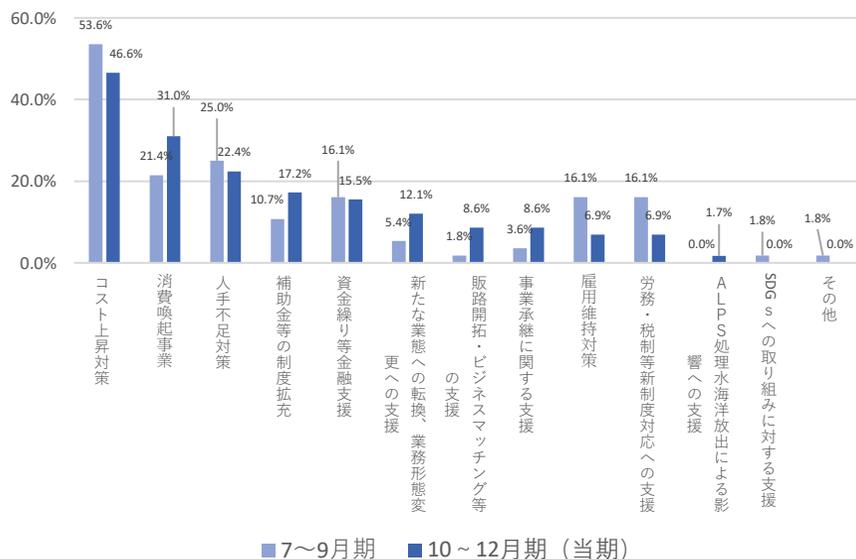
建設業



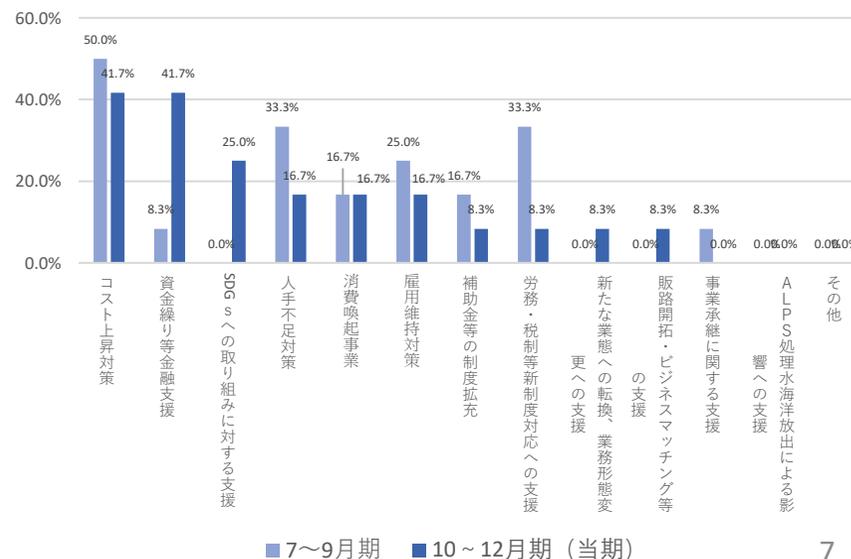
4. 国や県、市等の行政に望む支援

- ▼全業種平均の「コスト上昇対策」が46.6%を記録。小売業、建設業を除いたすべての業種で、最も回答を集めた選択肢だった
- ▼「コスト上昇対策」について、特に製造業では75.0%と突出した数値を記録した
- ▼サービス業では「資金繰り等金融支援」が41.7%を記録。前回調査時の8.3%より大幅増となった
- ▼建設業では「人手不足対策」に最も多くの回答が集まった（38.5%）。一方で「雇用維持対策」は33.3%から25.6%減となる7.7%を記録

全業種平均値

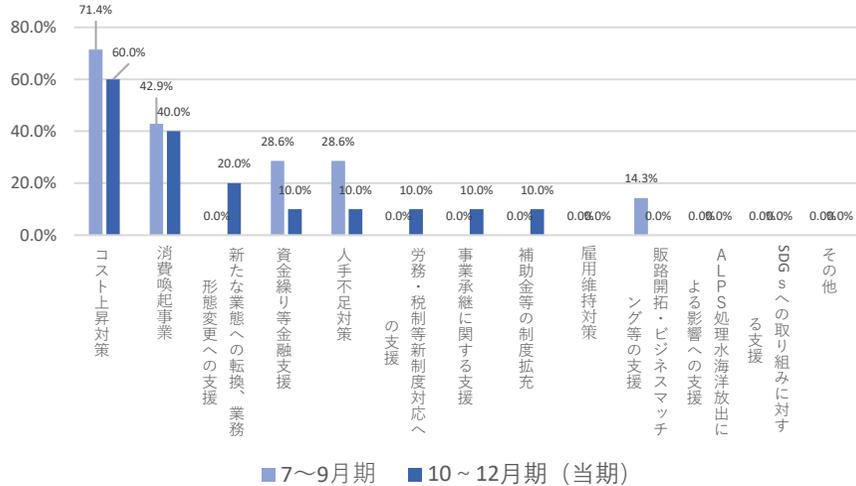


サービス業

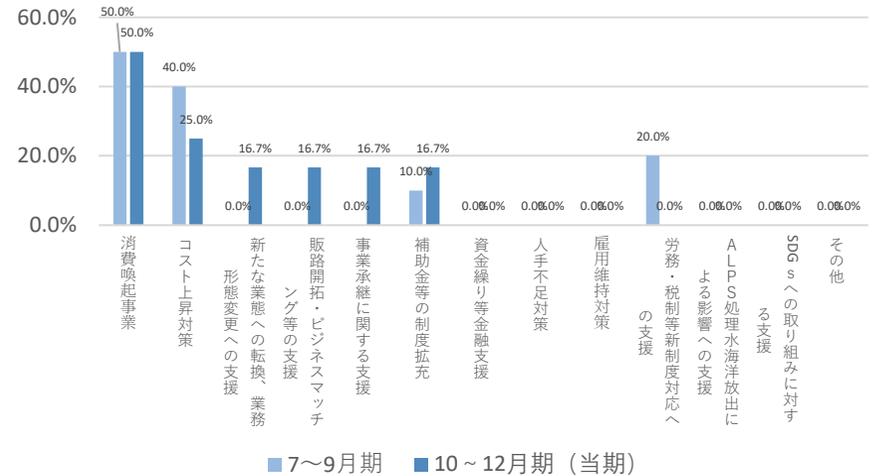


4. 国や県、市等の行政に望む支援

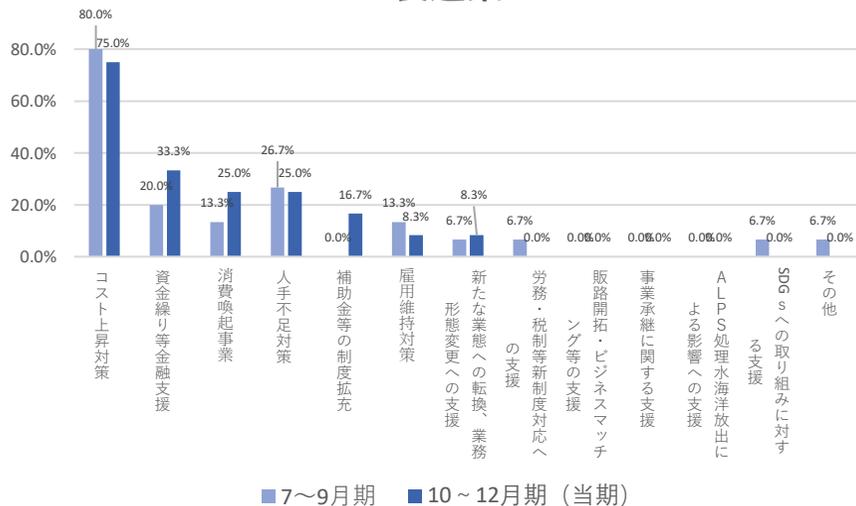
卸売業



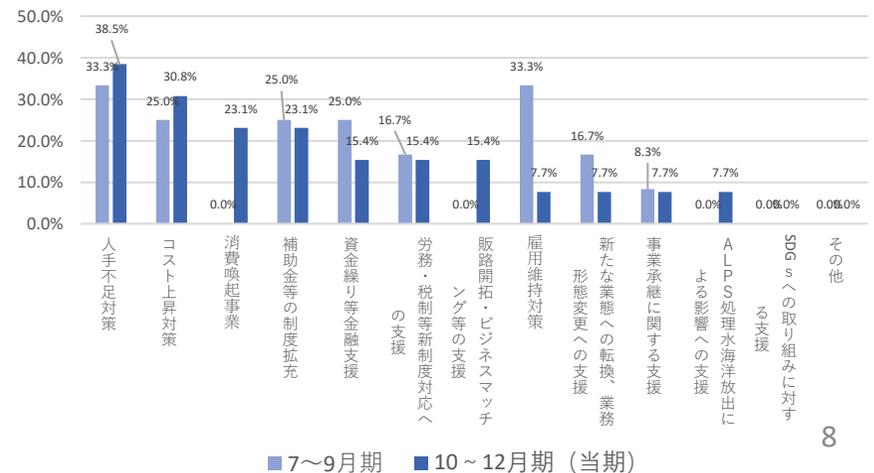
小売業



製造業



建設業



5. 自由記述

仕入単価、物価高と人件費高騰で利益が出ない	全業種
人手不足が続いている。労働者の確保と定着に課題がある。人手不足ゆえに先の事業計画を立てづらい	サービス業、製造業
道路整備。道路拡張など消費者が往来しやすい環境を整えてほしい	サービス業
コロナウイルスの第5類移行により、対面での営業やサービス提供ができるようになった	サービス業
街を歩く方の数が減っている	サービス業、小売業
インボイス制度、電子帳簿保存など、事務負担が増加している	サービス業、製造業
税金や社会保障費の高騰が苦しい	サービス業
コロナウイルスの流行によって、取引先によっては業態を変えた事業所もあり従来の取引に影響がある	小売業
空きテナント対策を講じてほしい。有力テナント業の誘致も必要と考えている	小売業
材料仕入れ値が下がることはないと思うので、仕入れ先の変更を検討している	小売業
コロナウイルスの流行を契機に経済環境や生活環境が変化したことで、消費に対する価値観も大きく変わったと感じている	小売業
団体客の減少を感じる。コロナウイルスの流行により、これまでの様式が壊れて再構築されていない印象がある	小売業
これまでの観念にとらわれることなく、今の時代に合ったまちづくりで塩竈の魅力を高めてほしい	小売業
夜間営業需要の低下を感じる	小売業
円安による仕入れ価格の上昇	製造業
コロナウイルスの流行以降、土産品関連の需要が回復せずに運転資金に影響がある	製造業
建設業では2024年から景気の悪化が予測されている。補助金や支援金など幅広く促してほしい	建設業

■調査概要

調査対象時期	令和5年10～12月期 ※「次期予測」対象は令和6年1月～3月
調査対象	商工業者100者（サービス業、卸売業、小売業、製造業、建設業 各20者ずつ）
回答率	60.0%
調査方法	郵送によるアンケート方式（回答方法は紙媒体またはGoogleフォームの選択式）
調査内容	(1)業界景気、自社景況などの実績と次期予測
	(2)経営上の課題
	(3)国や県、市等の行政に望む支援
	(4)新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴う事業環境の変化や、望みたい支援、経営にまつわる困りごとなど

■D.I値（景況判断指数）について

$D.I = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

D.I値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※日本商工会議所 LOBO調査 調査結果より